

会津本郷野仏の解説

1 地藏菩薩

会津本郷町文化財調査委員会

「釈尊入滅後、次代の仏である弥勒仏が五六億七千万年の後に出世するまでの無仏の間、この五濁の世に出現して六道（地獄・我鬼・畜生・修羅・人間・天上）の衆生を救済する菩薩」がお地藏さんです。

町内には二十四基のお地藏さんが、寺や観音堂・墓地の入口・村外れ・旧街道沿いに造立されています。

今から二百余年前（明和年代）ごろまでが、お地藏さん信仰のピークであったと考えられます。

村のはずれのお地藏さんは、いつもここにこいて見てござる。あるときは母親が子の健やかに育つことを願い、また、病に苦しむ者はその平癒を願い、老人たちは集まって念仏を唱えて後生を願ってききました。

このようにお地藏さんは、私たちの身近にあつて、ときに遊び、ともに悲しみ、いつまでも深く親しみ合う仏様といえましょう。

2 湯殿山

出羽三山の奥の院と崇められる湯殿山は。“大日如来”を本地仏として祀り、作神と家内和合を祈願する神仏混淆の信仰です。

町内には二十六基の湯殿山が、それぞれの集落に造立されています。

湯殿山詣りは寛政（二七八九）から、天保（一八四三）の五十年間が最盛期でありました。

集落ごとに“講中”を組み選ばれた代参人が行屋にこもって水を浴び、身を清めてお盆のころに豊作祈願の詣りをしたのです。

時の流れに湯殿山詣りも変貌して今は苔むす二十六基の供養塔が、その昔の面影を現在に残しています。

*寛延元年（一七四八）に造立された「奉八日供養塔」が、土俵河原に見られます。十月八日は湯殿山の御縁日です。

（*のは尾島利雄氏よりの御教示）

3 白湯山

“白湯山”は、那須山の主峰である茶臼岳（一九一七メ